

もっとズルい登録販売者講座チケット 第6回 (解答用紙)

受講 番号		氏 名		得 点	／35
----------	--	--------	--	--------	-----

[illegible][illegible][illegible][illegible]

もっとズルい登録販売者講座 チェックテスト 第6回（問題）

1. 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、エストラジオールを補充するもので、膣粘膜または外陰部に適用されるものがあり、妊娠中の女性にも安全に使用することができる。
2. サフランやコウブシは、鎮静・鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促し、センキュウやトウキ、ジオウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静・鎮痛等の作用を期待して用いられる。
3. 温経湯は、体力中程度で、皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの、月経不順、月経困難、血のみち症、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎に適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向きであり、また、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じる。
4. 桂枝茯苓丸は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経痛、更年期障害、血のみち症、肩こり、めまい、頭重、打撲傷、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適する。
5. 加味逍遙散は、体力中程度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく。精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘のけいこうのあるものの冷え性、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血のみち症、不眠症に適すとされる。
6. 桂枝茯苓丸と加味逍遙散はどちらも、婦人科でよく用いられるが、桂枝茯苓丸は、精神神経症状に対応する。
7. アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療においては、一般用医薬品であっても、長期の連用により、根気よく対応していくことが大切である。
8. ジフェンヒドラミン塩酸塩は、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合は授乳を避ける。
9. プソイドエフェドリンは、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人では、症状を悪化させるおそれがあり、使用を避ける必要がある。
10. ベラドンナ総アルカイドは、鼻腔内の刺激を伝達する交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合される。

11. フェニレフリンやナファゾリン、テトラヒドロゾリンなどは、副交感神経を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることにより、鼻づまりを和らげるが、過度な使用は血管が反応しなくなり、反動的にむくみを生じることから、かえって鼻づまりがひどくなりやすい。
12. クロモグリク酸ナトリウムは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
13. リドカインは、局所麻酔成分であり、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑える。
14. ケトチフェンフマル酸塩は、くしゃみや鼻汁などの症状を和らげる。
15. サイコは、ウマノサザクサ科のケイリンサイシンまたはウスバサイシンの根および根茎を基原とする生薬で、鼻湿閉への効果を期待して用いられる。
16. 小青竜湯は、体力中等度またはやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支ぜんそく、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人には不向きとされ、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい。
17. 茵陳蒿湯は、体力中程度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの蕁麻疹、口内炎、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人には不向きとされ、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい。
18. 十味敗毒湯は、体力中等度なものの皮膚疾患で、発赤があり、ときに化膿するものの化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、じんましん、湿疹・皮膚炎、水虫に適するとされるが、体の虚弱な人、胃腸の弱い人では不向きとされる。
19. 消風散は、体力中等度以下で、冷え症で、皮膚が乾燥するものの湿疹・皮膚炎（分泌物の少ないもの）、かゆみに適するとされるが、胃腸が弱い人には不向きとされる。
20. 荊芥連翹湯は、体力中等度以上で、皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているものの蓄膿症（副鼻腔炎）、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきびに適するとされるが、胃腸が弱い人には、胃部不快感などの副作用が現れやすく不向きとされる。ときに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎が現れることが知られている。
21. 辛夷清肺湯は、体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症（副鼻腔炎）に適すとされ、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎、腸間膜静脈硬化症が現れることが知られている。

22. ネオスチグミンメチル硝酸塩は眼粘膜のタンパク質と結合して保護皮膜を形成する収斂成分で、硫酸亜鉛水和物は角膜の乾燥を防ぎ、コンドロイチン硫酸ナトリウムは眼粘膜の組織修復を促す成分で、アラントインは眼の調整機能を改善する成分である。
23. 人工涙液は、眼の疲れや痒み、結膜充血等の症状を抑える成分が配合されているものである。
24. 抗菌性点眼薬は、抗菌成分が配合され、結膜炎（はやり目）や麦粒腫（ものもらい）、眼瞼炎（まぶたのただれ）などに用いられる。
25. ホウ酸は、用時水に溶解し、結膜囊の洗浄消毒にもちいられるほか、点眼薬の防腐剤として配合されている。
26. クロモグリクサン酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す。
27. 皮膚用薬に配合されるサリチル酸は、角質軟化成分であり、抗菌・抗真菌作用等は期待できない。
28. ウフェナマートは、湿疹・皮膚炎、かぶれ、あせも等による皮膚症状の緩和を目的として用いられる。
29. 一般的に、かかとなどのカサカサみずむしには、液剤が適している。
30. 痒みの強い皮膚症状の場合、かきむしったしないよう、とりあえずステロイドを使用して、痒みや炎症を抑える。
31. ウンデシレン酸は、患部をアルカリ性にすることによって、みずむしの原因となる皮膚糸状菌を死滅させる。
32. ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げる事により皮膚糸状菌の増殖を抑えるが、単独での抗真菌作用は弱いため、イミダゾール系などの抗真菌成分と組み合わせて配合される。
33. テルビナフィン、は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する物質の産生を妨げるため、単独でも十分な殺菌力をもつ。
34. 打撲や捻挫などの急性の腫れや熱間を伴う症状に対しては、冷感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適すとされる。
35. インドメタシン、ケトプロフェン、ピロキシカム等は、胎児毒性の化膿性はない。

もっとズルい登録販売者講座チェックテスト 第6回(解答解説)

1. × エニチルエストラジオールは女性ホルモンの一種であり、妊娠中の女性ホルモンの摂取による胎児の先天性異常の発生が報告されているため、妊娠または妊娠していると思われる女性は使用を避ける必要がある。授乳中も同様に考え、避けるべきである。
2. ○ サフランはアヤメ科サフランの柱頭、コウブシはカヤツリグサ科ハマスゲの根茎、センキュウはセリ科センキュウの根茎、トウキはセリ科トウキ（またはホッカイトウキ）の根（通常は湯どうしをして用いる）、ジオウはゴマノハグサ科アカヤジオウ等の根（またはそれを蒸したもの）
3. × 問題文は、温清飲の説明。温経湯は、体力中程度以下で、手足がほてり、唇が渇くものの月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹・皮膚炎、足腰の冷え、しもやけ、手あれに適するとされるが、胃腸の弱い人には不向きとされる。
 - ・温経湯（うんけいとう）…体力中程度以下で、手足がほてり、唇が渇く
 - ・温清飲（うんせいいいん）…体力中程度で、皮膚はかさかさして色つやが悪く
4. ○ 桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）の学習上のポイントは、比較的体力があり…のぼせて足冷え、というところ。
特に、婦人向け漢方で、「比較的体力があり」とされているものは珍しい。
そして、体の虚弱な人には、不向きとされている。
5. ○ 加味逍遙散（かみしょうようさん）の学習上のポイントは、
体力中程度以下で…精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向、というところ。胃腸が弱く下痢しやすい人では不向きとされる。
6. × 精神不安やいらだちがある精神神経症状に対応するのは、加味逍遙散である。
7. × 一般用医薬品には、漢方製剤を含め、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものはなく、また一般用医薬品のアレルギー用薬は、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、使用を止め、医師等を受診すべきである。
8. ○ ジフェンヒドラミン塩酸塩やジフェンヒドラミンサリチル酸塩等のジフェンヒドラミンを含む成分は、吸収された一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。

9. ○ プソイドエフェドリンやメチルエフェドリンなどのエフェドリン類は、アドレナリン作動成分であるので、心臓病、高血圧、糖尿病または甲状腺機能障害の診断を受けた人、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は、使用しないこと。
10. × 鼻腔内の刺激を伝搬するのは、知覚神経であり、ベラドンナ総アルカイドが抑制するのは、副交感神経系の働きである。
11. × フェニレフリンやナファゾリン、テトラヒドロゾリンなどは、副交感神経の働きを抑制して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻づまり（鼻粘膜の充血や腫れ）を和らげる。
12. × クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉やハウスダスト等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。
13. ○ リドカインは、局所麻酔成分であり、痛みや痒みを抑える目的で、様々な分野で用いられている。
14. ○ ケトチフェンフマル酸塩は、第二世代の抗ヒスタミン薬で、眠気が強めである。
15. × サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
ウマノサザクサ科のケイリンサイシンまたはウスバサイシンの根および根茎を基原とする生薬で、鼻湿閉への効果を期待して用いられるのは、サイコである。
16. ○ 小青竜湯（しょうせいりゅうとう）の学習ポイントは、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出る、というところであり、鼻炎やかぜ（初期～中期の鼻風邪）によく用いられることと絡めて覚える。また、構成生薬として、マオウを含むこと、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症を生じることもポイントである。
17. ○ 茵陳蒿湯（いんちんこうとう）の学習ポイントは、体力中程度以上で…便秘するものの蕁麻疹、というところ、構成生薬として、ダイオウを含み、胃腸が弱く下痢しやすい人では不向きとされる。

18. ○ 十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）の学習ポイントは、
体力中等度…発赤があり、ときに化膿する、というところであり、
赤く化膿した湿疹をイメージしておく。
化膿性皮膚疾患などへの使用では、必ずしも短期間に限られないが、漫然とした
長期使用は避け、1週間ぐらい使用しても症状の改善がみられないときは、一旦
使用を中止して、専門家に相談すべきである。
19. × 消風散（しょうふうさん）は、体力中等度以上の人の皮膚疾患で、かゆみが強く
て分泌物が多く、ときに局所の熱感があるものの湿疹・皮膚炎、じんましん、
水虫、あせもに適するとされる。
体力中等度以下で、冷え症で、皮膚が乾燥するものの湿疹・皮膚炎（分泌物の
少ないもの）、かゆみに適するされるが、胃腸が弱い人には不向きとされる。
のは、当帰飲子（とうきいんし）。
- ・消風散（しょうふうさん）：体力中等度以上…かゆみが強くて分泌物が多く
 - ・当帰飲子（とうきいんし）：体力中等度以下…皮膚が乾燥する（分泌物の少ないもの）
20. ○ 荊芥連翹湯（けいがいれんぎょうとう）の学習ポイントは、皮膚の色が浅黒く、
ときに手足の裏に脂汗というところであり、ニキビによく使われる。構成生薬と
してカンゾウを含む。
21. ○ 辛夷清肺湯（しんいせいはいとう）の学習ポイントは、濃い鼻汁が出て、
ときに熱感を伴うというところである。（店頭薬名：チクナインなど）
22. × 眼粘膜のタンパク質と結合して保護皮膜を形成する収斂成分は硫酸亜鉛水和物、
角膜の乾燥を防ぐのはコンドロイチン硫酸ナトリウム、
眼粘膜の組織修復を促す成分はアズレンやアラントイン、
眼の調整機能を改善するのは、ネオスチグミンメチル硝酸塩である。
23. × 問題文は、一般点眼薬の説明。人工涙液は、涙液成分を補い、眼の疲れや乾き、
コンタクトレンズ装着の不快感を軽減するため、おもに塩化ナトリウムや塩化
カリウムなどの塩類が配合されたものである。
24. ○ スルファメトキザールなどが配合され、細菌感染による各種の目の症状の改善を
目的としている。
25. ○ 防腐剤フリーの点眼薬でもホウ酸は配合されている。適当な濃度でそのまま
使えるホウ酸配合洗眼薬も発売されている。（ウェルウォッシュアイ）
26. × クロモグリクサン酸ナトリウムは、抗アレルギー成分である。

27. × 角質軟化成分に併せて、抗菌・抗真菌、抗炎症作用も期待され、いぼたこ用薬ばかりではなく、ニキビ用薬に配合されることもある。
28. ○ ウフェナマートは、非ステロイド性抗炎症成分の一つであり、湿疹・皮膚炎、かぶれ、あせも等に用いられるが、刺激感（ヒリヒリ感）、熱感、乾燥感が現れることがある。
29. ○ ただし、傷がある場合は、液剤だとしみるので、ジュクジュクみずむしと同様に軟膏剤やクリーム剤が適している。
30. × ステロイドは、痒みや炎症を抑える一方で、末梢組織の局所免疫を低下させる作用があるため、原因によっては症状を悪化させる恐れがある。
31. × ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることによって、皮膚糸状菌の発育を抑える。
32. ○ ピロールニトリンとクロトリマゾールを組み合わせた製品が有名である。
(ピロエースW)
33. ○ テルビナフィンやブテナフィン、アモロルフィン、単独でも十分な殺菌力をもっている。
34. ○ 急な打撲や捻挫などは、まず冷やすことが大切である。初期に氷で冷やし、なるべく患部を動かさずに、心臓より高く上げて安静にすると腫れにくい。
35. × インドメタシン、ケトプロフェンなどを、妊娠後期のラットに経口投与した実験では、胎児に動脈管の収縮が見られた。